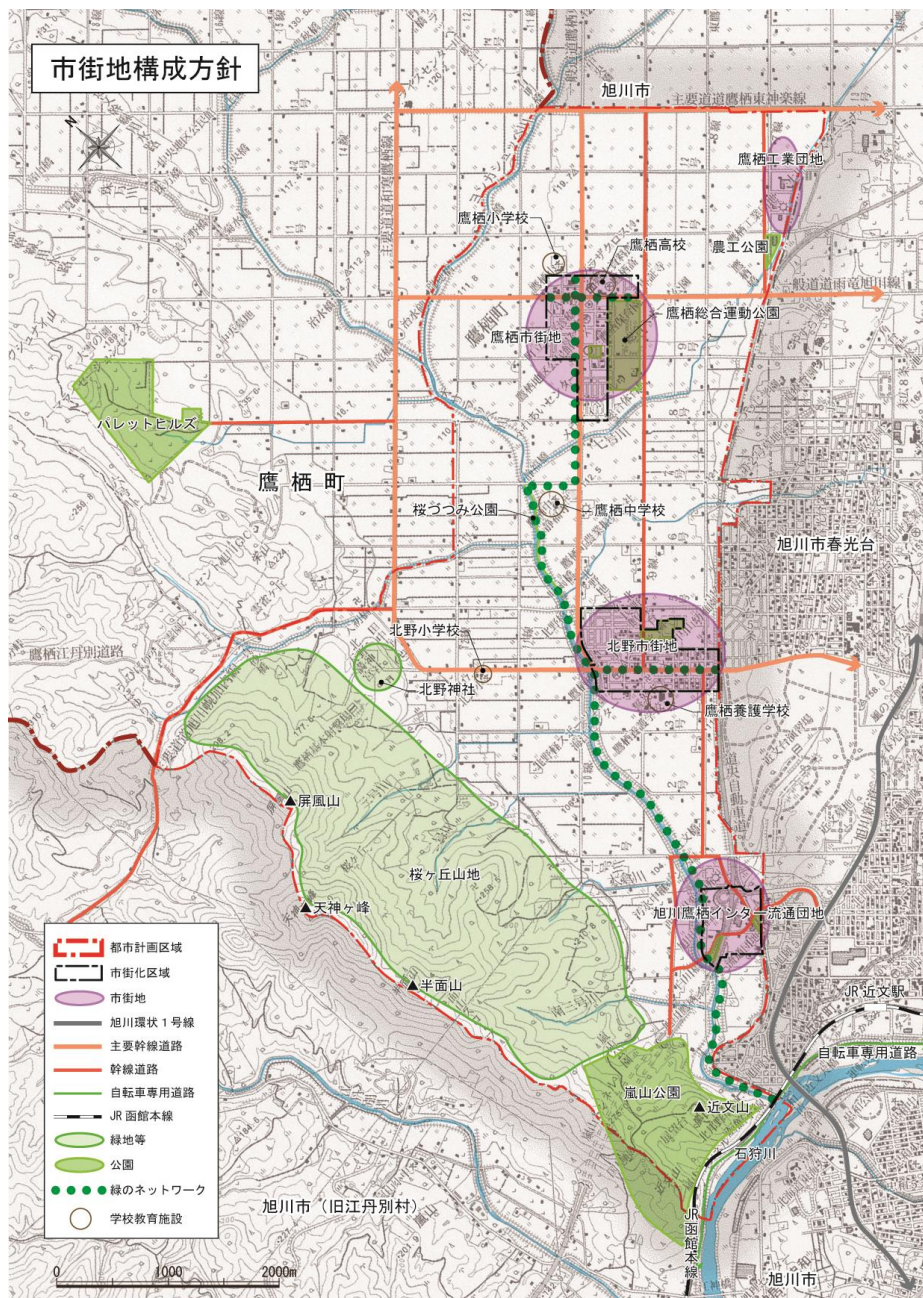


第5章 地域づくり構想（地域別構想）

1. 地区区分の考え方

中心拠点機能、生活拠点機能が集積する「鷹栖市街地」、旭川市に隣接する住宅市街地である「北野市街地」、工業・流通団地の「旭川鷹栖インター流通団地、鷹栖工業団地」、市街化調整区域、基幹産業の農業を支える「農村地区」の4地区に区分します。

図 5-1 市街地構成方針



2. 各地区の構想

(1) 鷹栖市街地

1) 鷹栖市街地の現状と課題

①鷹栖市街地の現状

[中心拠点・生活拠点機能]

鷹栖市街地は、役場、総合福祉窓口、福祉サービス拠点など主要な公共施設や、子育て支援センター、保育園、放課後児童クラブ、高校といった子育て・教育施設、地域包括支援センター、特別養護老人ホーム等の福祉施設、診療所、郵便局・金融機関、飲食店などが立地する中心拠点・生活拠点となっています。また、日用品が揃うスーパーと町の特産品が揃う物産館が併設された商業拠点施設の開設により、鷹栖市街地と中央・北斗・北成地区の住民の買い物利便性の向上と観光振興が図られます。

[多様な住宅]

鷹栖市街地は、近隣商業地域の周辺に、第一種低層住居専用地域の戸建住宅や民間賃貸アパート、町営住宅など多様な住宅ストックがあります。

ただし、新耐震基準施行以前(1981年(昭和56年))の住宅や老朽化した町営住宅、空き家、低未利用地も存在します。

[幹線とフィーダー交通の結節点]

隣接する旭川市の中心である旭川駅から鷹栖町公共交通広場(プラザクロス10)を結ぶ路線バスと、主に農村地区の自宅前から乗降できる定時運行の町営バス(デマンドバス)の結節点となっています。

②鷹栖市街地の課題

人口減少により、様々なサービスの効率が低下する中で、中心拠点、生活拠点機能の維持が求められます。また、少子高齢社会での高齢者福祉施設と子育て施設の整備誘導が求められます。

老朽化した町営住宅の更新や高齢化により増加する空き家の既存住宅市場への投入促進、民間賃貸住宅の供給誘導などにより、旭川市から通勤する若年就労層や子育て世代などの定住化が求められます。

高齢化の進行に伴い、徒歩生活者の増加が想定される中で、旭川市への幹線と農村地区での町営バス(デマンドバス)の利便性の維持が求められます。そのため、バスの待合時間を結節点で快適に楽しく過ごせるように、新たに開設する商業拠点施設などにより交通結節点を活性化することで、人の流れを呼び込み、にぎわいの創出が求められます。

2) 鷹栖市街地の整備方針

鷹栖市街地の整備のテーマ「生活利便性が高く快適で住み続けられる市街地の形成」

①新たな生活拠点機能の誘導と維持・向上

生活中心ゾーン内に既存施設である特別養護老人ホーム、デイサービスセンターなどの福祉施設、保育園、子育て支援センターなどの施設が集約された福祉拠点エリアの形成により、本市街地の新たな中心拠点機能を充実します。

また、新たに整備した日用品が揃うスーパーと町の特産品が揃う物産館が併設された商業拠点施設の維持と開設により、鷹栖市街地と中央・北斗・北成地区の住民の買い物利便性の向上と観光振興を図ります。

住民センターなどの交流施設については、住民による主体的な運営により、にぎわいや人の流れを呼び込むなどの機能向上を図ります。

②良質な居住環境の形成

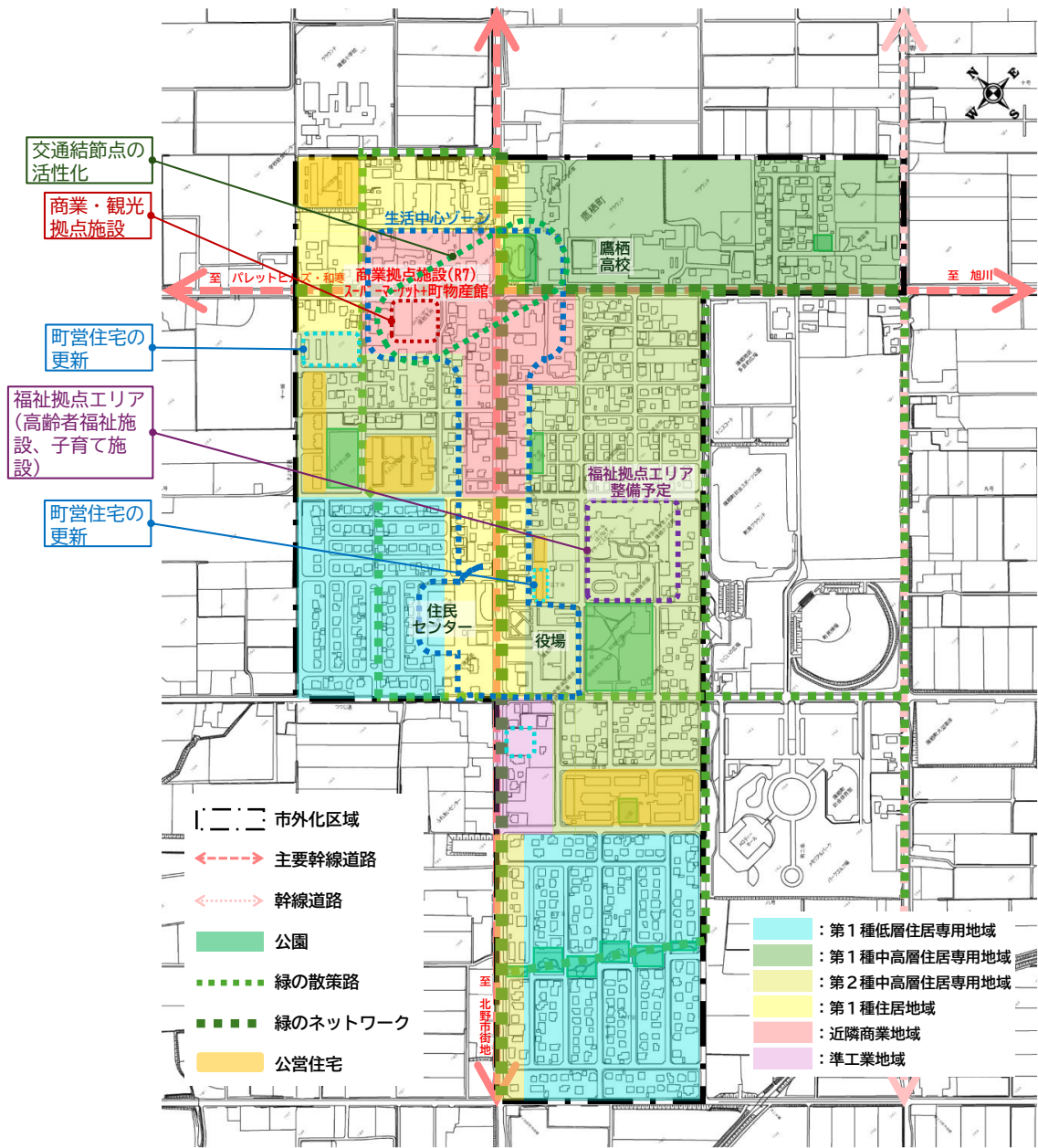
老朽化した公営住宅の更新や低未利用地を活用した民間賃貸住宅の供給誘導により、若年就労層や子育て世代の定住化を図ります。

空き家の既存住宅流通促進のために、福祉と連携した空き家予備軍対策により、長期の空き家の発生を抑制し、高齢者の健全な住み替えを図ります。

③交通結節点の活性化

旭川市と鷹栖町の農村地区を結ぶ交通結節点である鷹栖町公共交通広場(プラザクロス10)に加え、近接する商業拠点施設により、交通結節点の活性化を図ります。

図 5-2 鷹栖市街地の整備方針



(2) 北野市街地

1) 北野市街地の現状と課題

①北野市街地の現状

[計画的住宅地＋生活拠点施設]

北野市街地は、良質な計画的戸建住宅地を有するとともに、地区住民センター、認定こども園、放課後児童クラブといった子育て・教育施設、フィットネスクラブを併設したサービス付高齢者住宅の他、生活中心ゾーン、沿道ゾーンには小型スーパーマーケット、郵便局・金融機関等など日常の生活拠点施設を有しています。

[旭川市の生活利便施設の活用]

北野市街地は旭川市に隣接し、路線バスの交通アクセスも良く、旭川市内の大型商業施設や病院などの利用が容易で生活利便性が高い状況です。

[自然災害]

北野市街地には、オサラッペ川の洪水(想定最大規模)により3m未満の浸水が生じることが想定されています。

②北野市街地の課題

今後、人口減少が進行する中で、高齢福祉や子育て、スーパーマーケット、金融機関などの生活拠点機能を維持していくことが重要です。

旭川市との路線バスの利便性の維持が求められます。

災害予防や避難などの対策では、自助・公助に加え、地域コミュニティによる共助が重要となります。

2) 北野市街地の整備方針

北野市街地の整備のテーマ「安心して快適な暮らしを実現できる市街地の形成」

①子育て支援機能の充実

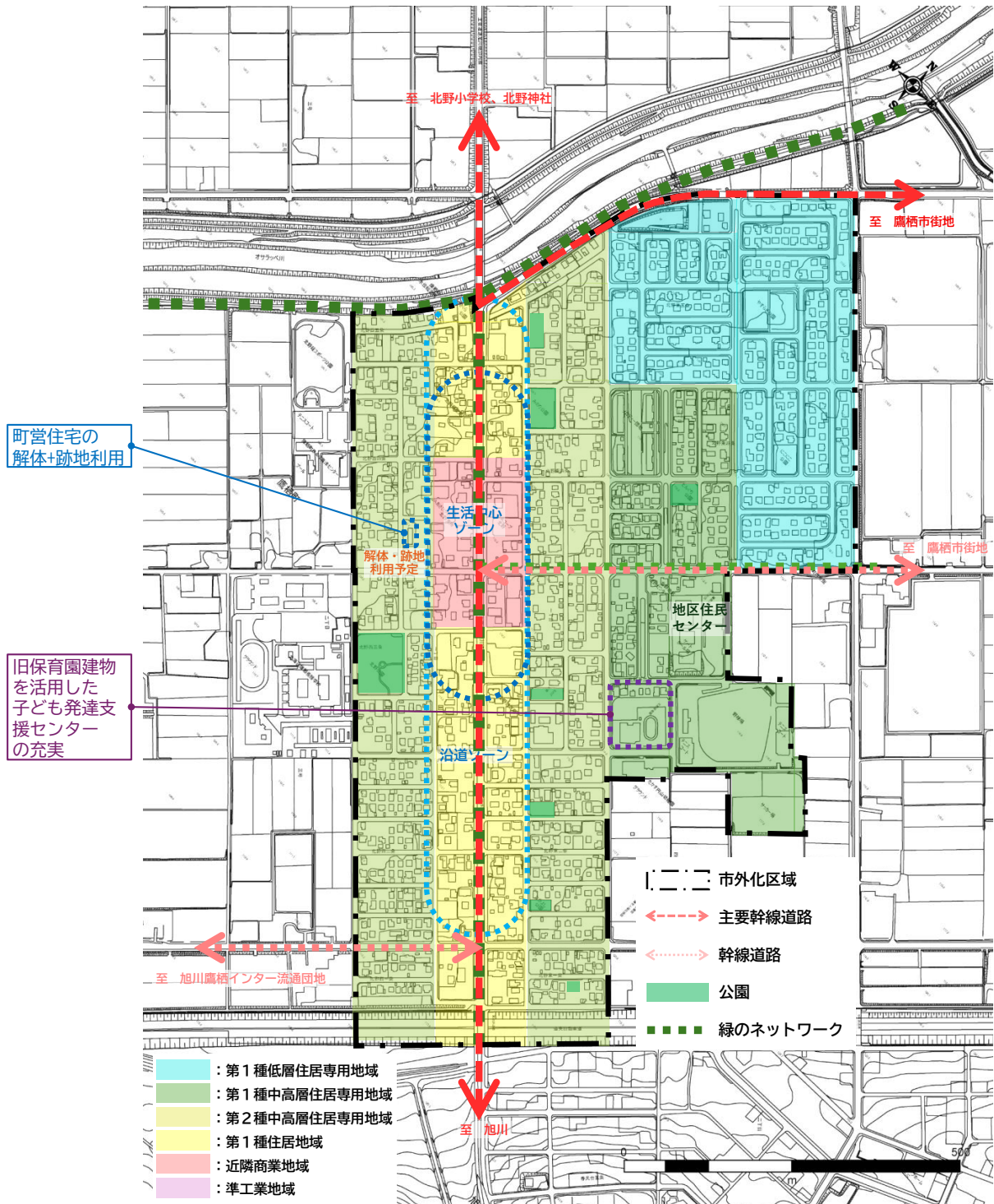
令和6年度末で閉園した北野保育園の建物を活用し、「こども発達支援センター」を令和7年10月に開設するなど、子育て支援機能の充実を図ります。

②良質な居住環境の形成

老朽化した公営住宅解体跡地や低未利用地を活用した住宅の供給誘導により、若年就労層や子育て世代の定住化を図ります。

空き家の既存住宅流通促進のために、福祉と連携した空き家予備軍対策により、長期の空き家の発生を抑制し、高齢者の健全な住み替えを図ります。

図 5-3 北野市街地の整備方針



(3) 工業地区(旭川鷹栖インター流通団地、鷹栖工業団地)

1) 旭川鷹栖インター流通団地、鷹栖工業団地の現状と課題

①旭川鷹栖インター流通団地、鷹栖工業団地の現状

鷹栖町の工業地は、旭川空港や高規格幹線道路網等の高速交通体系とリンクした産業集結を目指し、旭川鷹栖 I C 周辺に旭川鷹栖インター流通団地、旭川北 I C 周辺（市街化調整区域）に鷹栖工業団地があります。

旭川鷹栖インター流通団地は工業・業務施設が立地し大きな遊休地はない状況です。鷹栖工業団地には、遊休地がある状況です。

②旭川鷹栖インター流通団地、鷹栖工業団地の課題

産業を取り巻く環境は、為替変動や地球環境保全への対応など大きく変化しています。これらの変化による両団地への転入ポテンシャルの動向に応じた分譲の充実が求められます。特に鷹栖工業団地の遊休地への企業進出が求められます。

2) 旭川鷹栖インター流通団地、鷹栖工業団地の整備方針

旭川鷹栖インター流通団地、鷹栖工業団地の整備のテーマ

「地場資源を活用した工業地、流通業務地の形成」

①社会状況に応じた分譲の充実

地場産資源の活用を視点に、鷹栖工業団地の遊休地の分譲による企業進出を図ります。

(4) 農村地区

1) 農村地区の現状と課題

①農村地区の現状

[農業を支える農村地区]

農村地区は、鷹栖町の基幹産業の農業を支える地区ですが、人口減少や農地の大規模化に伴い農業従事者が減少しています。

[集落機能の低下]

農家数の減少や農業従事者の高齢化により、本来、有している地域コミュニティによる相互扶助機能が低下する恐れがあります。

[農業環境の新たな動き]

農業従事者不足を補うための新規就農者の動きがあります。

農業の省力化、効率化などのための農業分野でのDX技術の導入が進んでいます。

[鷹栖町の農村景観を創出]

市街地を取り囲む稲作地の風景が四季をとおして美しい景観を形成しており、鷹栖町で暮らすことの大きな価値となっています。

[レクリエーション]

西部丘陵地帯にあるパレットヒルズは町民のレクリエーションの活動の場となっています。

②農村地区の課題

基幹産業である農業の振興のためにも、農村集落の維持は重要で、そのためには地域コミュニティの活性化や新たな地域運営が求められます。令和2年度からは、従来の公民館組織を母体とした地域運営組織の設立、地域の課題解決に向けた地区計画が策定され、新たな地域コミュニティの基盤づくりが進められており、持続性を高めていくことが必要です。

鷹栖町の景観の根幹をつくりだしている農村景観の保全のために健全な農業経営や町民参加による景観づくりの活動が求められます。

町民のレクリエーションの場であるパレットヒルズについては、町民参加の運営により活性化が求められます。

2) 農村地区の整備方針

農村地区の整備のテーマ「持続可能な農業による農村地区の形成」

①農業振興による農村地区の形成

持続可能な農業を支えるためのDXの導入や新規就農者、後継者の確保、高付加価値化による魅力ある農業の実現を図ります。

②農村集落の維持

農業従事者が減少する中で、農業振興を進めるために、地域コミュニティの維持を図ります。地域運営組織が主体となり、従来の公民館活動や生涯学習の機会創出に加え、地域の防災など課題解決に向けた活動を推進することにより、暮らしやすい地域づくりへとつなげていきます。

③農村景観の保全

農業振興に加え町民参加による景観づくりを図ります。

④パレットヒルズの活性化

自然共生型公園として、住民参加により利活用の促進を図ります。